

プロフィール



名前	森山隆太郎
所属部署	近畿大学工学部生命科学科 環境生理学研究室
職種	講師
近畿大学に赴任した日	2005年4月1日
出身地	東京都
趣味	罪悪感なく飲食をするために 歩くこと

インタビュー

Q1. 現在の研究内容は？

肥満・低栄養などによる栄養状態の変化が視床下部-下垂体-性腺軸や配偶子に与える影響について；妊娠時の母体のストレス応答性について、マウス・ラット・ウシ・ブタ・培養細胞等を用いて研究しています。

Q2. 研究者（教員）を志したきっかけは？

小さいころ住んでいた家の隣りに小石川植物園があり、東京にいながらへビやカエルが身近な生き物でした。原体験は、あの頃でしょうか。あと、恩師や先輩の影響も大きかったと思います。

Q3. 研究者となるために必要なことは？

めげない粘り強さ、新しいことに躊躇しない行動力、ちょっとした違いに気が付く注意力、なんでも面白いと思える発想力、情報を正確に伝え・理解する国語力、ポジティブシンキングあたりでしょうか。国語力を別にしていえば、無人島に放り出されても生きて行ける人が研究者には向いていると思います。

Q4. 無人島...、研究者の世界はそんなに過酷なの？

研究者、特に大学人はスペシャリストでありながら、ゼネラリストであることが求められています。企画・開発（研究）から営業（学会活動・論文執筆）、財務（予算獲得）、総務（ラボ運営）まで諸々を行う必要があります。だから、学生のうちに色々な経験をして、多くの引き出しを持つことが重要です。そうすれば、オンリーワンの研究を進めることも、無人島で生きて行くこともできるのではないのでしょうか。過酷かどうかは分かりませんが、研究者はすごいんです！！

Q5. なぜ、色々な動物を用いて研究をしているの？

最近、基礎研究の結果を社会で役立てるためにはどうしたらよいか、ということを考え始めたからです。なので、基本はマウスやラットでの研究になります。

Q6. 社会に役立つことはできそう？

まだまだです。基礎研究の結果を形あるものにするためには、研究とは全く違うノウハウや人脈の必要なことが分かってきました。まずは、色々なところに売り込むことから始めています。ただ、妄想の中ではみんなに感謝されて、大金持ちになって、ノーベル賞を3個取っていますよ。。。。

